

教会報ほんじよ

〒130-0011 東京都墨田区石原 4-37-2
TEL : 03-3623-6753 FAX : 03-5610-1732
http://www.catholic-honjyo-church.org

INDEX

- 「教皇の言」
主任司祭 パウロ 豊島 治
- 「子どもとともに祝うクリスマス」
「主の降誕の祭日」
- 「司牧評議会からのお知らせ」
- その他

「教皇の言」

主任司祭 パウロ 豊島 治

一月のご挨拶を申し上げます。

一月一日「神の母聖マリア」の祝いのミサでは前日に逝去された名誉教皇ベネディクト十六世の遺影台も備えてのものとなりました。教会のマリア祭壇には写真と花が備えられ所謂「跪き台」も据え、五日まで祈りのスペースとしました。その後はカテドラルに移ります。(十日まで)



バチカンの修道院の一室で逝去されたのは日本時間午後五時過ぎ、日本での報道では午後九時あたりと思います。日本国総理大臣、外務大臣も年内最後の書簡として弔意書簡を出されていたと報じられています。バチカンでの葬儀は一月五日、東京ではカテドラルで十日に追悼ミサが行われます。

元日版五つの日本の主要日刊紙の扱いは、国際版での面割りでは一面比で朝日十三%、産経七%、東京六%、毎日十%、日経四%でした。急いで載せたのか複数ページにまたがっていたものもありましたが、全紙掲載されていました。

前任のヨハネ・パウロ二世の在位も長く、人気がありましたので立場は相当きついなものがあったと思います。しかし教理省長官を長年歴任し、首席枢機卿として教皇職を支えてきた経歴は落ち着きを信徒に与えました。

ベネディクト十六世が選ばれたという一報が入った時、当時の駐日大使ボッターリ大司教様は「新しい教皇に教理省長官になったのではありません。実際彼は慈悲深いかたなのです」と話されましたし、夏、司祭の黙想で青山和美神父様と寺西神父様が「今度の教皇様の書かれる書簡は美に素晴らし。はつきりしているし、論理的である」と評されておられました。彼から神学を学んだ日本の方も多く、人柄を知ることができ書籍も多く出ているのも特徴でしょう。生涯教皇職が当然視されていた当時、生前退位をされたのも驚きをもって報道されました。

公認されていませんが、「二人のローマ教皇」の映画の評判は良かったようです。今では日本も含め諸外国の象徴は職務と果たすために何が必要というところが主となって見られているようです。

遺された回勅の中には「希望」を説く箇所があります。神とつながる人間の内面への愛です。とりわけベネディクト十六世の回勅は次世代に伝えたい珠玉のものです。



回勅 「希望による救い」

身許に召される時、最後のことは「主よ愛しています」との報道。これぞ信仰と感じさせるので救われるように努めるのは私たちの人生には責任があるからと諭された名誉教皇の多くの言葉は今も必読されるものと思っています。



上の写真は、東日本大震災を経験した日本在住の少女の「どうして日本の子どもは怖くて悲しい思いをしなければならないの」との質問に答えたベネディクト十六世